

**横浜市指定管理者第三者評価
横浜市青少年野外活動センター
評価シート**

横浜市青少年野外活動センター指定管理者選定評価委員会

目次

1. 総評	3
2. 基本方針	5
(1) 施設管理運営の基本的な考え方	5
(2) 施設管理運営の5年間の目標と計画方針	6
3. 事業計画	8
(1) 事業実施に関する基本的な考え方	8
(2) 計画的な事業展開や利用者サービスの向上について	9
(3) 地域や他機関等との連携・協働について	17
4. 管理運営	18
(1) 運営体制に関する基本的な考え方について	18
(2) 収支計画について	20
(3) 施設の維持管理について	21
(4) モニタリングの実施について	22

<評価の考え方>

- A: 提案書以上の成果を挙げている
- B: 提案書どおりの成果を挙げている
- C: 提案書の成果が挙がっていない

1. 総評

指定管理者記入欄	選定評価委員会記入欄
<p>【取組事項等】</p> <p>私たち横浜市体育協会は青少年野外活動センターの指定管理にあたり、提案書で本市と市民の皆さまにお約束させていただいた内容の実現を使命として日々管理運営に取り組んでいます。</p> <p>青少年の健全育成を第一に、多種多様な対象と目的のお客様に的確なサービスの提供と柔軟な運営をおこなうことで市民の皆さまがますます元気になる野外活動センターを実践しています。</p> <p>施設管理ではこれまでの長年の管理経験を活かし、職員による日常清掃や日常点検とあわせて、ボランティアによる美化活動や専門業者による定期点検を行い、安全・安心・快適に利用できる空間を提供しています。</p> <p>お客様サービスの向上では、自然環境への意識、生命との触れ合い、異年齢との交流、体力向上、防災の取組み等、現代の青少年に必要な多様なプログラムを施設の特徴を活かして、地域や関係団体、ボランティアとの連携の下、提供しています。また、多種多様なご利用を促進するために、空き状況に応じて青少年団体以外のご利用を積極的に受け入れるとともに、日帰り利用の時間延長やホールやグラウンド等室場別利用受付を行うなど、新たな取り組みを行っています。さらに内部モニタリングと地域やお客様、関係団体のご意見や所管局との情報交換により日々業務の改善に取り組んでいます。</p> <p>広報活動では、3施設一体のポスターとリーフレットを作成し、地下鉄駅に掲出したり、関係施設等へ配布したりするなど、お客様にとってどの施設がご利用の目的にあった施設かを選択していただけるようにしました。また、SNSを活用して教室内容や施設特徴をより伝わりやすくするなど、お客様目線にそった内容になるよう工夫しています。</p> <p>これらの施設の運営にあたっては、3施設一体及び協会全体での業務委託や物品購入など、スケールメリットを活かした経費の縮減を実現し、かつ無駄を抑えた経費支出や魅力的な自主事業の実施による財源の確保など、健全で適正な運営を行っています。</p> <p>第3期指定管理期間は、残り2年となりますが、次年度末には全施設で、提案事項の100%達成を目指してまいります。</p>	<p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案書に示された内容について着実に実績を積み重ねてきています。運営協議会もその一例となりますが、利用者のニーズを踏まえた的確なサービス、柔軟な運営を展開しています。 ・提案書に記載された30の「アクションプラン（実施策）」について、平成29年度末における実施数が29（実施率97%）と、非常に高い達成率となっており、基本理念に沿って着実に事業が進められています。 ・利用者サービスの向上、プログラムの充実、学童クラブ支援員に対する野外活動技術のノウハウ移転など、現状にとどまらず、一歩先に進もうとする姿勢は高く評価できるものです。 ・現代の青少年に必要な多様なプログラムの提供、SNSを活用した情報発信、柔軟な施設運営、安全管理に取り組んでいます。 ・「三施設一体」を十分に意識した広報活動や、物品購入等にも工夫が認められます。残りの期間で、提案事項の100%の達成を目指していただきたい。

	<p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この事業を実施するための組織・体制、仕組みは十分に機能し、人員の教育も図られ、事業目標の達成は可能と思われます。しかしながら、細部のレベルでは新たな課題が散見できますので、一度、整理・検討をお願いします。 ・利用者数や利用率を高めることに注力するあまり、事業の費用対効果といった視点が弱くならないよう留意が必要と考えられます。家族等の小規模単位での宿泊利用への対応や、日帰り利用の時間延長等などにあたっては、実施のために必要なコストを勘案しながら進める必要があります。限られた資源（労力・時間等）を、何にどの程度投入するのが効果的かも慎重に検討しながら、事業を組み立てていくことが望まれます。 ・日々の管理運営で繁忙を極めていることは十分に理解できるものの、2020年にオリンピック、パラリンピックを控える中で、今の子どもに真に必要とされている野外体験のあり方といった、根本的な部分での中長期ビジョンの再検討・明確化を期待します。 ・野外活動センター機能を更に発展・充実させるためにも、多くの関係団体、地域、学校との協力は欠かせません。今後、更なる効果的で密なる協働化、連携に取り組んでください。 ・今後、施設の老朽化がより深刻な状況になると思われますので、長期的な展望に立った修繕計画を作成されることを期待します。また、所管局においても、多様な手法を視野にいたれた大規模修繕等の在り方の検討などを図っていくことが望まれます。 ・自然環境が変化の中で、予測不能な自然災害の被害が数多く発生していることを踏まえ、児童の命を預かる施設として、酷暑対策、地震や風水害等の対応について、一定頻度できめ細かな見直しを図っていくことが望まれます。
--	---

2. 基本方針

(1) 施設管理運営の基本的な考え方 (様式7)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
ア	役割、課題に対する考え方	A	B	C	A	B	C
	横浜市の青少年育成施策の現状や課題を踏まえ、提案書で示す当該施設の役割を果たしている						
イ	管理運営に関する考え方	A	B	C	A	B	C
	管理運営基本方針に沿って、施設が管理運営されている						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】</p> <p>私たちは、青少年野外活動センターを『横浜市子ども・子育て支援事業計画』に謳われている「子ども・青少年が様々な力を育み、健やかに育つ環境をつくる」、「子育てが楽しいと思える環境をつくる」、「社会全体で子ども・青少年を育てる環境をつくる」推進拠点として位置づけ、人と人の交流や自然体験活動、新たなサービスの機会を継続して提供するため、「子ども・青少年の健やかな成長支援」、「老朽化対策と環境保護」、「地域・ボランティア等との協働」、「関係団体・地域との連携」、「施設価値の最大限発揮」を基本方針として設定しました。</p> <p>これらを踏まえ、運營業務では異年齢グループでの宿泊体験や動物とのふれあい、鶴見川を利用したカヤック体験、防災や野外炊事をテーマとしたファミリーキャンプ等の教室事業を開催しています。また、平日の空きコマをスポーツ利用等で積極的に受け入れています。管理業務では1日に2回以上の日常点検を行い異常の早期発見に努め、必要な修繕を実施しており、修繕費は予算を大幅に超過していません。青少年を取り巻く課題解決や経営改善について、地域住民や利用団体代表者と施設で構成する運営協議会にてご意見や情報をいただき事業に反映させています。</p>				<p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市の青少年育成策の現状や課題を十分に理解した上で、当該施設の役割を果たしています。また、管理運営の基本方針に沿って施設が管理運営されています。 ・事業計画について、世の中の環境やニーズの変化に対して柔軟に対応する仕組みとして、事業評価会、運営協議会、連絡会、所長会等を通して逐次見直し修正が可能であることも評価できます。今後の更なる運営の充実を期待します。 ・野外活動施設として、青少年だけでなく、幼児から大人まで、多様な体験が出来、多様な人と関われる運営をしています。 			
<p>【今後予定している取組等】</p> <p>社会情勢の変化に合わせながら「様々な担い手による社会全体での子ども・青少年への支援」が実践できるよう、関係団体との連携を強化していきます。</p> <p>平成30年に終了する第2期横浜市教育振興基本計画、平成31年に終了する『子ども・子育て支援事業計画』より継承される新たな施策を見据えながら、施設に期待される新たな役割を検討していきます。</p>				<p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市内に立地する施設であることのメリットや課題、また施設の老朽化が進んでいることなどを勘案した上で、一定の制約条件の中で、メリットを最大限に活かし、継続的利用の開拓を図っていくことを期待します。例えば横浜市内で行きやすい施設であることの利点を活かし、様々な野外体験教室において、難易度が高くなるステップアップのプログラムを組み、一段階が終了するごとに「修了証」を発行して、次のステップに進む動機付けを図り、継続利用につなげていくことなどが考えられます。 ・青少年教育施設としての役割は十分に果たしていると考えられますが、今後、地域社会や時代とともに変わる社会的課題に積極的に取り組まれることを期待します。 			

(2) 施設管理運営の5年間の目標と計画方針 (様式8)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄														
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)														
ア	目標について	A	B	C	A	B	C												
	指定期間の達成目標に対し、順調に進んでいる																		
イ	計画方針について	A	B	C	A	B	C												
	計画方針に沿って、施設が管理運営されている																		
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄															
<p>【評価の根拠】 目標値は平成 26 年度実績を基に各年度の経過ごとにお客様延べ人数を 1%ずつ増加させることとして積算しています。この目標を達成するために5つの基本方針を定め、これに基づいた 30 のアクションプランを策定しています。 この 30 プラン中、平成 29 年度末で 29 を実施しました (実施率約 97%)。 この結果、お客様の延べ人数は、今期指定管理期間中いずれも目標値を上回っています。</p> <p style="text-align: center;">お客様数の目標(人・延人数)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>77,609</td> <td>83,942</td> <td>108%</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>78,377</td> <td>86,178</td> <td>110%</td> </tr> </tbody> </table>				年度	目標値	実績	達成率	H28	77,609	83,942	108%	H29	78,377	86,178	110%	<p>【現状の評価】 ・中間時点において、計画された 30 プラン中、飲酒利用の許可を除く 29 プランが実施され、実施率が約 97%と着実に事業が進められています。 ・利用者の延べ人数 5%増という数値目標についても、これまでの 2 年度間で達成されており、利用促進のための努力がうかがわれます。</p>			
年度	目標値	実績	達成率																
H28	77,609	83,942	108%																
H29	78,377	86,178	110%																

<p>【今後予定している取組等】</p> <p>現状の推移を維持しながら、運営協議会でいただいたご意見やアンケート等のモニタリング結果をふまえ、関係団体と連携した事業、市や国をあげて開催される大規模スポーツイベントに関連した事業を実施するなど、よりお客様にご満足いただける様、施設の改修や職員の育成に取り組んでいきます。</p>	<p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数の目標に対して十分に達成しております、5年間目標についても達成可能と思われませんが、一般利用と青少年の利用を分けてみた場合は、青少年の長期低落傾向は避けられないため、新たな対策が必要と思われます。 ・一方で、少子化が進行する中で、右肩上がりの利用者数目標の達成が難しくなる事態も考えられることから、数値ばかりを追うことに陥ることのないよう、より一層の質の充実も心がけ、たとえば利用者の満足感などの質的評価についても点検してください。 ・2020年のオリンピック、パラリンピックに向けて、様々なスポーツの普及や体験などを行っていくことなども検討してください。特に公設の施設として、パラリンピック競技についての理解や関心を高めることなどが期待されます。 ・経済的な面において、赤字が計上されていることから、適切な改善策を策定し実施されることを期待します。
---	---

3. 事業計画

(1) 事業実施に関する基本的な考え方 (様式9)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
ア	野外活動の普及・振興のための取組みについて	A	B	C	A	B	C
	事業計画に基づき、野外活動の普及・振興に取り組んでいる						
イ	野外活動センター3施設の特長と連携について	A	B	C	A	B	C
	事業計画に基づき、3施設の特長を活かした取組みを行うとともに、効果的な連携を図っている。						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】</p> <p>「人」、「プログラム」、「フィールド」の3要素を整え、市民に対して様々なサービスを提供することで、野外活動の普及・振興に取り組んでいます。</p> <p>人材育成としてアウトドアリーダー養成講座の研修会を施設で受け入れ、地域等で活躍する市民指導者を育成しています。また、大学実習生や野外活動ボランティアを施設で受け入れ、実習の場を提供しています。さらに、青少年指導員や学童保育の研修に出向き、指導方法をレクチャーしています。プログラムでは3施設連携で防災をテーマとした教室の実施など、新たな切り口で野外活動への参加機会を設けました。フィールドではより使いやすい施設とするため、物販・レンタルの拡充、日常清掃・安全点検に留まらず、室場別の予約受付や日帰りの利用時間延長を行っています。</p> <p>各施設の特徴を活かした取組として、三ツ沢では同公園や平沼記念体育館との連携事業、くろがねでは鶴見川を利用したカヤック体験やテント泊、こども自然では同公園内動物園との連携事業や公園全域を使ったイベントへの協力等を行っています。</p> <p>施設間連携としては、合同リーフレットやポスターを作成し、お客様の利用目的に沿って選んでいただけるようにしました。また、定期的に所長会や職員研修会を開催し、情報共有や人材育成を行いました。</p>				<p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画に基づいて、野外活動の普及・振興に着実な成果を上げてきています。 ・3施設共通の事業プラスそれぞれの立地特性を活かしたプログラムが企画、開発されるなど、3施設の特徴を活かした取組が展開される一方で、効果的な連携のあり方も探っています。今後もこの連携を一層推し進めてください。 ・野外活動の普及・振興に向けて、大学実習生や野外活動ボランティアを受け入れるとともに、青少年指導員や学童保育の研修でレクチャーを行うなど、野外活動に関わる人材育成に着実に取り組んでいます。 ・野外活動を広める対象を、未就学児と保護者、家族やサークル単位へシフトし、プログラム展開を工夫しています。 ・事業展開に伴う地域事業協力者、団体との協業・連携を通して、野外活動の普及・振興に取り組んでいます。 			
<p>【今後予定している取組等】</p> <p>より多様な方へ野外活動に親しんでいただけるよう、子育て支援拠点や障がい者団体等へ事業説明等を行います。</p> <p>引き続き施設間での情報共有や合同研修を実施します。</p>				<p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者層の拡大が図られているが、中長期的視点から、利用率を高めるにあたって、対象層を拡大するのがよいのか、本来の目的の事業の質の向上を図り、青少年層の利用を高めるのがよいのか、慎重に検討する必要があります。 ・3施設の連携については、広報や情報共有、合同研修などが行われていますが、プログラム開発会議など、実施事業内容まで踏み込んだ、より高い度合いの連携も図っていくことが望まれます。 			

(2) 計画的な事業展開や利用者サービスの向上について (様式 10)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
ア	利用者サービス向上のための取り組みについて	A	B	C	A	B	C
	利用しやすい工夫や館内サービスの向上、利用者ニーズへの対応が図られている						
エ	広報活動・利用促進について	A	B	C	A	B	C
	広報活動・利用促進に取り組んでいる						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】</p> <p>申し込み手続きの簡略化や予約空き状況に応じた少人数利用の積極的受け入れ、食材販売・レンタル等の既存サービスを継続し、教室事業やレンタル物品、自販機についてはお客様のニーズに合わせ拡充しました。また、当日受付プログラムを積極的に開催し、これに参加されたお客様に施設をPRし、レポートにつなげています。さらに、ユニバーサルサービスを心がけ、障がい者団体のご利用時には設備が対応しきれない部分を職員の工夫で対応しています。</p> <p>新たな取り組みとして、日帰り利用延長、室場別利用受付、ウォーキングポイントリーダーの設置、防災をテーマにしたキャンプの開催、出前講座の拡充を行いました。</p> <p>広報では既存の広報よこはま、ホームページ、チラシ小学校全児童配布に加え、新規取り組みとして、3施設共通リーフレットの作成・配布、駅貼りポスター、記者投げ、地域情報誌・コミュニティFM・ケーブルテレビでの掲載、民間販売店でのチラシ配布、近隣学校・青少年指導員会長会・横浜市体育協会加盟団体への利用提案、外部イベントへの積極的参加によるPRを行いました。</p>				<p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な利用者のニーズに対応するための、様々な創意工夫が行われています。 ・施設の利用率を高めるため、室場別の予約受付や日帰り利用の時間延長など、利用しやすい環境設定に向けた努力が行われています。 ・多種多様な広報活動に取り組むとともに、関連団体との広報活動の連携、協業化により経費節減が図られています。 ・ホームページ、フェイスブック、共通のチラシで、効果的な広報に取り組んでいます。また、利用者アンケートの意見を参考に、利用しやすい工夫をしています。 			

<p>【今後予定している取組等】</p> <p>お客様ニーズを把握するため、モニタリングを徹底します。また、子育てサークルにはスポーツマット、自転車利用団体にはバイクラック、大学サークルにはプロジェクターなど、多様な対象に合わせて物品や提供プログラムを整備します。</p> <p>広報では幅広い層にアプローチするため、子育て支援拠点や障がい者団体、大学等へ直接出向き利用提案をおこなうと共に、要望を伺いニーズを把握します。</p>	<p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な利用者を視野に入れた事業開発を期待します。 ・使いやすい施設とするための室場別の予約受付や、日帰り利用の延長等のサービスの充実にあたっては、コストパフォーマンスも勘案し、収支が圧迫されることのないよう留意してください。 ・広報活動に積極的に取り組むだけでなく、それが施設の利用促進につながっているのか否か、活用した媒体ごとにどのような成果が得られたのかといった実施結果の検証をする必要があります。むやみやたらに発信するといった費用対効果の低いものとならないよう、発信したい相手を明確にした上で、それらの層に効果的な媒体を選択し、情報発信文言も対象層に響くものにするなど心かけることが望まれます。 ・利用していない学校や地域住民等に意見を聞く機会を持つのも一案です。利用しづらい要因の解消につなげられる可能性があります。 ・利用者ニーズへの対応に工夫が認められます。利用者ニーズに関しては、今後とも幅広くアンテナをはり続ける姿勢が求められます。 ・小さな工夫改善を積み重ねる努力と、モニタリングの徹底が更に重要と思われれます。
--	---

(2) 計画的な事業展開や利用者サービスの向上について (様式 11-1、11-2)

ア ミツ沢公園青少年野外活動センター

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
イ	プログラムの開発と実施計画について	A	B	C	A	B	C
	青少年を対象としたプログラムを開発し、実施している						
ウ	自主事業計画について	A	B	C	A	B	C
	自主事業の目的と効果を明確にして、事業を実施している						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】 ミツ沢公園管理センター及び周辺施設との連絡調整を行い、専門性を有する人材の派遣や公園資源の活用等の協力を得ながら、プログラムの開発を行いました。 また、周辺地域防災訓練において、救命救急講習会、避難訓練及び野外炊出し訓練などを公園と連携して実施しました。自主事業では、ミツ沢公園の自然と施設を活用した「竹林利用 (筍堀り、竹のクラフト・炊事等)」や馬術練習場と連携した「命のふれあい活動」を行い、参加者から好評を得ています。 また、「食育と自然保護 (エコ)」を目的に、子どもたちが野外炊事のメニューを考え、食材の買い出しをするなど、“自らが考えて創る事業”を実施しています。そして、これらの事業実施に伴い、公園管理センター、馬術練習場、地域との連携を深めています。</p>				<p>【現状の評価】 ・これまでの実績を踏まえながら、プログラム開発に取り組んでいることを評価します。その際に、周辺施設との連携・協力のもと、専門性を有する人材の派遣や公園環境を活用した特長あるプログラムが実施されるなど、新たな展開が認められます。 ・「食育と自然保護 (エコ)」を目的とした“自らが考えて創る事業”は、複合的なテーマの下で、子どもたちの自主性や自発性、社会性を養う新しい取り組みとして評価でき、今後に期待します。 ・「もしもの体験」「野外活動教室」など、現代の子どもたちに必要な力を育む企画が実施されています。 ・大地震などの自然災害の発生といった近年の環境をとらえ、公園との連携による災害時対応の講習会開催、また、施設内外の資源を活かした独自性あるプログラム開発など、事業の充実が図られています。 ・平成 29 年度の自主事業による収入の予算達成率が 78%にとどまっており、中でも野外活動教室事業収入の予算達成率が 72%と低いことから、予算達成に向けた努力が望まれます。</p>			

<p>【今後予定している取組等】</p> <p>広報手段としてSNS（フェイスブックなど）をたちあげて、利用方法やプログラム等センターの情報を随時周知します。これにより、公園利用者がセンターに立ち寄っていただけるような場をつくり、平日昼間の空きコマの利用を促進していきます。</p> <p>自主事業では、随時新しい企画を取り入れてプログラムのマンネリ化を防ぐとともに、既存事業の開催日や対象者を見直して、参加者の拡充を図ります。</p>	<p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主事業におけるプログラムのマンネリ化の防止は心がけられているものの、毎年度の実施結果の検証を確実にし、改廃の基準（一定の目安）を立てて、プログラムの入れ替え、改善を図っていくことが必要と考えられます。 ・独自性の高いプログラムについては、当施設に来ないと体験できない質の高いものとし、口コミに掲載されることによって、当施設を利用するきっかけとなるプログラムに‘育てていく’ことを心がけてください。 ・フェイスブックを見た人が参加したくなるような情報発信を期待します。
---	---

イ くろがね青少年野外活動センター

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
イ	プログラムの開発と実施計画について	A	B	C	A	B	C
	各施設において、青少年を対象としたプログラムの開発と実施計画に取り組んでいる						
ウ	自主事業計画について	A	B	C	A	B	C
	自主事業の目的と効果を明確にし、計画的に取り組んでいる						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】</p> <p>施設の広場を利用したテント泊や近隣の鶴見川を利用したカヤック、施設内で間伐した竹を利用した流しそうめん、グラウンドを利用したスポーツ等施設の特徴を活かしたプログラムを提供し、好評をいただいています。</p> <p>プログラムは利用状況やニーズに応じ、随時見直しを行っています。例えば、「ピザ教室」では、石窯だけでなくドラム缶や一斗缶でもピザを焼き、「仕組み」を理解し「自ら考えられる」ことができるように、様々な方法を開発しています。また、フィールド活動では仲間と協力して敷地内を観察しながら散策できる「すごろく」を作成し、提供しています。</p> <p>自主事業では、野外活動体験の普及・振興を図るため、野外活動の教室をはじめ、食材・物品の販売事業やレンタル事業を行っています。</p> <p>自主事業の内容は利用団体や地域ニーズ、教室の応募状況に応じ毎年見直しを行ない、定員を超える申し込みがあった場合は追加事業の開催などを行い利用の増加につなげています。</p>				<p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テント泊やカヤックなど、立地や施設の特徴を十分に活かしたプログラム開発に取り組んでいることを評価します。 ・グラウンド（スポーツ広場）の利用率が向上しており、平成 29 年度は 40%を超えるなど、多様な団体の野外活動の利用が促進されています。 ・「ピザ教室」において、仕組みを理解し、自ら考えることができるような方法が開発されるなど、子どもの育ちを重視した創意工夫が見られます。 ・地域の状況、応募状況に応じてプログラム改善、改良が行われています。 ・コンパクトな施設の特徴を生かしたプログラムが展開されています。 ・平成 29 年度の自主事業による収入の予算達成率が 73%にとどまっており、中でも野外活動教室事業収入の予算達成率が 68%と低いことから、予算達成に向けた努力が望まれます。 			

<p>【今後予定している取組等】</p> <p>より多くの方に施設を利用してもらうため、野外活動初心者でも安心して計画が立てられるように、活動内容の例をホームページなどで分かりやすく記載します。</p> <p>自主事業では、地域団体や近隣農家と連携し、野外炊事をメインとした教室で、収穫の体験を取り入れることで付加価値のある事業展開を図ります。</p>	<p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野外活動教室において、定員に対する参加の充足率が 30%台以下のものが見受けられることから、毎年度の実施結果の検証を確実にし、改廃の基準（一定の目安）を立てて、プログラムの入れ替え、改善を図っていくことが必要と考えられます。見直しを行いながら、より付加価値のある事業を展開してください。 ・貸し切り利用ができる規模の小さな施設であることの特性を活かした、利用促進策の検討を期待します。例えば、学童保育は夏季休暇期間中に宿泊を伴う特別プログラムを実施することが多いことから、そうしたニーズを開拓することなども考えられます。 ・日帰りの幼児向けプログラムの開発を期待します。
---	--

ウ こども自然公園青少年野外活動センター

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
イ	プログラムの開発と実施計画について	A	B	C	A	B	C
	各施設において、青少年を対象としたプログラムの開発と実施計画に取り組んでいる						
ウ	自主事業計画について	A	B	C	A	B	C
	自主事業の目的と効果を明確にし、計画的に取り組んでいる						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】</p> <p>新規プログラムの開発で、防災プログラムの「空き缶炊飯」や科学プログラムの「熱気球」などを、野外活動教室で取り組み、そのノウハウを利用団体に提供できるように資料化しています。</p> <p>また、既存プログラムでは、クラフトの「紙こま」は幼児でも回しやすいミニ版を加えたり、野外ゲームの「フォトラリー」は写真を取り直すなど、利用状況や公園施設の変更に応じて随時見直しを行っています。</p> <p>自主事業の野外活動教室は、多種多様な企画で市民ニーズに対応するとともに、「防災」「科学」「食育」「動物」などのテーマを持った宿泊キャンプを実施し、参加者からも「有意義だった」「楽しかった」などと5点満点中いずれも4.8点以上といったご好評をいただいています。</p>				<p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災プログラムや科学プログラムの新規開発など、プログラム開発に積極的に取り組んでいることを評価します。また、既存プログラムの改良に取り組むなど、きめ細かなプログラムの実施が行われています。 ・テーマ性を持った宿泊キャンプが実施されるなど、子どもの育ちを重視した創意工夫が見られます。 ・「防災」、「科学」、「食育」、「動物」などのテーマ性を持った宿泊キャンプが実施されるなど、子どもの育ちを重視した創意工夫が見られ、今後とも期待が持てます。 ・当日受付の焼き芋体験は、直火を体験できる機会、焼き上がるまでの過ごし方が自然を楽しむ感性を育むチャンスです。 ・自主事業の野外活動教室は、平成29年度の定員に対する参加の充足度が83%と3施設の中で最も高く、当該教室の収入も予算を達成しているなど、充実した内容で展開されていることがうかがわれます。 			

<p>【今後予定している取組等】</p> <p>これまでに蓄積したプログラムを利用団体に提供できるようにアレンジし、資料化していきます。特に「防災」プログラムのバリエーションを増やし、利用団体に興味を持っていただけるようなPRも行っています。</p> <p>空き日程がない状況で、教室数を増やすことは難しいと考えています。申込みの充足率が低い教室の内容や対象などを毎年度見直し、一人でも多くの方に野外活動を体験していただける環境を整えていきます。</p>	<p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年度の教室の見直しにあたっては、例えば廃止を決定する基準や、団体の中でのプログラムの位置づけなど、一定の基準を設けておくことが望まれます。 ・プログラムの位置づけが、「育てるプログラム(子どもたちにとって重要な意味を持つプログラム)」であれば、参加充足度が低くとも、地道に継続し、参加者を開拓していくことが必要です。 ・防災プログラムの充実・強化にあたっては、子どもや親子の防災力向上などを目的として活動しているNPOなども県内にあることから、そうした団体との連携を図っていくことも考えられます。 ・SNSを活用した野外活動の啓発を期待します。
--	---

(3) 地域や他機関等との連携・協働について (様式 12)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
ア	地域との連携・協働について	A	B	C	A	B	C
	地域との連携・協働が図られている						
イ	学校、青少年関係団体や企業等との連携・協働について	A	B	C	A	B	C
	学校、青少年関係団体や企業等との連携・協働が図られている						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】 これまでの長年にわたる施設運営で築き上げた地域や関係団体、さらに横浜市体育協会関連施設や加盟団体と連携・協働して事業を展開しています。 これまで行ってきた地域人材の事業等での登用、地域還元事業の開催、個人での立ち寄り利用などに加え、新たな取り組みとして、運営協議会の設置、ウォーキング事業の拡充、気軽に立ち寄れる桜鑑賞会など、地域に開かれた事業を行っています。学校関係では、小学校の授業での施設の利用受け入れや、学童クラブ支援員に対して自然観察や仲間作りゲーム等の出前講座の実施、中学校の職業体験や大学の社会教育実習の受け入れ等を行っています。関係団体等では青少年指導員研修会への協力、スポーツセンターと連携した防災ウォーキング、さわやかスポーツ普及委員会と連携したスポーツ&もちつき体験、民間販売店と連携した広報や用具の手配、公園施設と連携した教室開催、戸塚区主催の環境イベントへの協力等を行っています。特に横浜ラポールと協働開催した障がい児キャンプでは、余暇活動の機会拡大にとどまらず、被災時の対応につながる内容とすることで障がい児の防災教育の一助となりました。</p>				<p>【現状の評価】 ・事業の展開にあたって、地域及び関連団体との連携・協働が図られ、学校、青少年関係団体や企業等との連携協力も図られています。 ・地域内での連携やこども宇宙科学館等の青少年施設との連携など、多様な連携関係が構築され、その成果がプログラムに反映されています。 ・学校との関係においては、施設への受入れと、施設からの出張という双方向の取組が実施されており、密度の高い関係性が構築されてきています。 ・運営協議会の設置、出前講座の実施、新しい団体への売り込み、共催事業の実施など、連携・協働の努力をしています。</p>			
<p>【今後予定している取組等】 警察と連携した防犯講話や民間販売店でのイベント開催、はまぎんこども宇宙科学館と連携したイベントを計画しています。 また、くろがねでは、学校や地域と連携し、地元の魅力に掲載した地域マップの作成を計画しています。</p>				<p>【改善に向けた提案・意見】 ・地域マップの作成は、子ども主体の、子ども目線による魅力発見と発信の機会となっていくことを期待します。例えば、夏季休暇期間に「夏休み自由研究」としてマップづくりを実施し、大学生ボランティアが子どもたちを引率して地域を歩き、マップを作成するなどの方法も考えられます。くろがねの定番事業とし、毎年度エリアを変えて実施するといったやり方もあると思います。 ・障がい児キャンプについては、慎重な検討を要するものの、障がいを持たない子も参加しての「ユニバーサルキャンプ」なども考えられるのではないのでしょうか。キャンプの中で、障がいの有無を問わず参加できるスポーツ競技を実施することで、相互の理解や交流、2020年パラリンピックに対する関心の醸成などにつながっていきます。</p>			

4. 管理運営

(1) 運営体制に関する基本的な考え方について (様式 13)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
ア	効率的かつ安定的な運営体制の確立	A	B	C	A	B	C
	効率的かつ安定的な運営を維持する体制が確立している						
イ	人材育成について	A	B	C	A	B	C
	職員の育成、資質向上に取り組んでいる						
ウ	危機管理への対応について	A	B	C	A	B	C
	安全管理、危機管理への対応、事故防止に向けた対策を講じている						
エ	個人情報保護に対する取組みについて	A	B	C	A	B	C
	個人情報保護に取り組んでいる						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】</p> <p>各施設にはキャンプディレクター1級等の有資格者を配置しているほか、利用状況に応じた柔軟な勤務シフト体制を敷いています。また、施設ボランティアを積極的に活用しているほか、協会本部による現地応援や経営分析、自然災害発生時の情報共有等のバックアップ体制により、効率的かつ安定的な管理運営を行っています。</p> <p>人材育成では、全職員にコンプライアンス、人権、個人情報、救急救命講習などの研修を義務づけています。さらに、公共サービス従事者研修やマーケティング研修の実施、キャンプインストラクター等専門資格の取得など職員の資質向上に努めています。</p> <p>安全管理対策として職員による日常巡視点検の他に専門業者による定期点検を実施しています。また事故防止のため横浜市体育協会で管理する他施設の事故・事案について共有しています。危機管理対策として、消防訓練の実施や食品衛生責任者講習会の受講、AEDの設置、施設賠償保険への加入、警察署員を講師に迎えたサイバーテロ対策研修等を行い万全の体制を整えています。</p> <p>個人情報保護については、プライバシーマークを更新しており、法令以上の厳格な体制で取り組んでいると共に、横浜市体育協会内で組織した内部監査員による点検を実施しています。</p>				<p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的資格を有する所長と職員ーサポートスタッフーボランティアという階層によって、施設を円滑に運営するための体制が整えられており、必要とする人材が配置されています。また、各施設ともに、勤続年数の長いベテラン、中堅、新人といった組み合わせで、年代が偏らない人員配置が行われています。 ・協会本部による支援・協力を受けながら、効率的かつ安定的な運営体制が確立しています。また、人材育成、資質の向上についても、全職員に対して教育体系に基づき必要な職員研修、資格の取得が実施され、職員の質が保たれており、その取組が組織的に行われています。 ・モニタリングでの「スタッフが良い」「施設が使いやすい」という意見が、リピーターが多いという結果に反映されています。 ・危機管理対応の手順が取り決められており、個人情報を保護するための対策やシステムが構築されていることから、危機管理への対応及び個人情報保護の取組も十分といえます。 			

<p>【今後予定している取組等】</p> <p>外部の方を委員に迎えた運営協議会を引き続き開催し、施設管理の改善についてご意見をいただき反映させます。</p> <p>障がい者や高齢者など災害発生時に支援が必要なお客様を想定した避難誘導等の研修を行います。</p>	<p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度の労働基準監督署からの指摘に対応するためのアルバイトの雇用増や手当額の発生といった余波が生じていることから、早期の安定化が望まれます。 ・近年、自然災害発生時に想定外の被害が生じていることに鑑み、再度施設内外の危険箇所の点検を行うとともに、大地震や風水害、酷暑等についての対策の見直しを、頻度高く行うことが必要と考えられます。
--	---

(2) 収支計画について (様式 14)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄																										
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)																										
ア	収支計画と無駄な支出の抑制策について	A	B	C	A	B	C																								
	無駄な支出の抑制に努め、計画通りに収支が推移している																														
イ	財務経営状況について	A	B	C	A	B	C																								
	施設を継続的、安定的に運営するための財政的基盤が整っている																														
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄																											
<p>【評価の根拠】</p> <p>スケールメリットを図るため、野活センター3施設をはじめ、当協会が管理運営するスポーツセンター等と一括して競争入札を実施しています。</p> <p>また、施設の小破修繕を可能な限り職員が補修するなど、コストの削減を行っています。</p> <p>収支執行管理は施設と協会本部との間で、毎月や四半期毎の収支状況の認識共有を図り、適切な執行管理を行っています。</p> <p>指定管理料を除く収入は概ね提案額を達成しています。</p> <p style="text-align: center;">収入の目標(千円・税込)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>提案額</th> <th>実績</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>36,609</td> <td>35,369</td> <td>96.6%</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>36,983</td> <td>36,450</td> <td>98.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>一方支出は突発修繕が相次いだため一部目標を達成できていません。また、指定管理料が提案額を下回っているため全体収支ではマイナスとなっています。</p> <p style="text-align: center;">支出の目標(千円・税込)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>提案額</th> <th>実績</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>116,036</td> <td>110,873</td> <td>95.6%</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>116,410</td> <td>117,690</td> <td>101.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>協会の平成28年度決算において、基本財産は122,400千円、総資産対正味財産比率は46.8%で、目安となる30%を上回っており、財政的基盤は十分に整っています。</p> <p>【今後予定している取組等】</p> <p>・社会的なニーズを考慮した新規教室事業の実施やレンタル物品等の拡充により、安定的な収入を確保します。</p>				年度	提案額	実績	達成率	H28	36,609	35,369	96.6%	H29	36,983	36,450	98.6%	年度	提案額	実績	達成率	H28	116,036	110,873	95.6%	H29	116,410	117,690	101.1%	<p>【現状の評価】</p> <p>・平成28年度においては1施設で、平成29年度においては3施設ともに収支差額で赤字が計上されています。主な要因は、収入面で自主事業の野外活動教室が予算に満たなかったこと、支出面で人件費が予算を超過したこと、修繕費や備品・消耗品費も予算を上回ったことにあります。</p> <p>・スケールメリットを活かした競争入札の導入や職員による小破修繕の取組などにより、経費の削減を図っている点を評価します。</p> <p>・指定管理者の法人全体の財務状況については、総資産対正味財産比率(自己資本比率)が46.8%と高い水準にあり、安定しています。</p> <p>【改善に向けた提案・意見】</p> <p>・突発的修繕、人件費(アルバイト代)等の予算オーバー(変動分)については今後の業務改善が望まれます。</p> <p>・安定的な収入を目指すとともに、野外活動教室の企画・実施や、利用者増に向けたサービスの拡充においては、費用対効果の観点から検証を行い、収入の増額を超える費用の増額が発生しないよう留意が必要です。</p> <p>・各施設の年度ごとの決算について、予算と実績が大きく異なった項目についての差異分析をしっかりと行い、要因を洗い出して、次年度の改善に結び付けていくことが望まれます。</p>			
年度	提案額	実績	達成率																												
H28	36,609	35,369	96.6%																												
H29	36,983	36,450	98.6%																												
年度	提案額	実績	達成率																												
H28	116,036	110,873	95.6%																												
H29	116,410	117,690	101.1%																												

(3) 施設の維持管理について (様式 15)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
ア	施設の維持管理について	A	B	C	A	B	C
	施設の保守管理、維持管理に取り組むとともに、地球温暖化対策等、環境へ配慮した取り組みを行っている						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】</p> <p>1日2回以上職員がおこなう建物・設備の日常点検と日常清掃、専門業者に委託して実施する設備の法定点検や定期点検、及び特別清掃や害虫駆除は、計画通りに実施しています。</p> <p>同様に外構・植栽管理も可能な限り職員が行い、専門的な技術が必要な作業は業者に委託して行いました。また、玄関やホールに施設周辺の四季折々の動植物の写真や教室に参加されたお客様の絵画等を掲示するなど明るい施設づくりを行いました。</p> <p>施設の修繕は緊急性を第一に考え、所管局と調整のうえ適切に実施しています。突発修繕が相次いだため支出は総額で提案額に対して106.3%となっています。</p> <p>『ヨコハマ3R夢』を館内に掲示し、お客様に分別を呼び掛け、生ごみはコンポストでたい肥化するなどゴミの減量に取り組みました。</p> <p>間伐した竹で、はしやお椀、そうめん流し等をボランティアやお客様と一緒に作成するとともに、間伐の必要性など人と自然の関わりについて説明し、環境について学ぶ機会をつくっています。</p> <p>さらに、緑のカーテン、光熱水費結果のグラフ掲出、LED電球への切り替え等に取り組んでいます。</p>				<p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化が進む中、清潔さが保たれており、建物内外の美化にもきめ細かな配慮が行われています。 計画通りに点検が実施されており、またプログラムの中に、施設を維持するために必要な環境学習の機会を作っています。 修繕の支出が提案額を超えるという結果になったものの、可能な作業はできる限り職員が行い、所管局と調整の上、緊急性の高い修繕を実施するなど、多大な努力をする姿勢が見られます。 			
<p>【今後予定している取組等】</p> <p>引き続き、日常点検や清掃を確実にを行い、施設・設備の異常の早期発見に努めることで将来的に無駄な支出につながらないようにします。</p> <p>経営状況を勘案しながらグリーン電力を購入します。</p>				<p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設点検や修理等、施設の維持管理に関して、計画的で丁寧な取組が見られますが、突発的な修繕、破損、故障については故障予測を高め(稼働時間管理など)、予防的修繕を可能とするよう努力してください。また、短期及び中長期的な見通しを立てた上で、所管局との緊密な連携を図り、危険性回避のために必要な修繕を、収支予算が圧迫されない形で進めていってください。 日常の点検に加え、近年の自然災害規模の大きさを勘案し、大規模な地震や風水害の際に危険な箇所はないか、再確認することが望まれます。 			

(4) モニタリングの実施について (様式 16)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
ア	モニタリングの実施について	A	B	C	A	B	C
	事業評価及びPDCA マネジメント等により、事業改善につなげている						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】</p> <p>お客様のご要望に的確に対応するため、PDCA マネジメントサイクルを構築し、継続的な改善を基本として管理運営をしています。また、組織全体で目標を共有し、それを基に職員個々で目標を設定し、定期的な振り返りと評価を行い業務水準の向上を図っています。</p> <p>セルフモニタリングとして、毎月各施設長と協会本部の担当者にて収支、お客様数、苦情・要望等を基に課題改善を検討する事業評価会を開催しています。また、四半期ごとに協会役員による事業執行会議を行い、他施設を含む情報の共有と業務改善に取り組んでいます。さらに、協会全体で導入しているイントラネットとグループウェアを利用し、一斉通知やマニュアルの掲載など情報共有をしています。</p> <p>お客様からのご意見やご要望を把握するため、団体利用や教室参加時のアンケートやご意見箱の設置、ホームページからの問い合わせ等を行い、随時改善しています。これに加えて今期から地域の方やお客様から構成される運営協議会を設置し、施設の運営改善や青少年の健全育成に向けた取り組み、地域の課題についてご意見をいただいています。</p> <p>これらの状況について所管局と情報共有を図るため、四半期ごとに連絡会を開催しています。</p>				<p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 内部における検討体制が整備されているほか、顧客ニーズを把握するためのアンケート実施やご意見箱の設置が行われており、多様な視点から事業の検証が行なわれています。 地域や関係団体などの事業協力者からの意見収集を実施し、事業の改善及び利用者満足度の向上に結び付ける仕組みが構築されており、またホームページでも意見を収集するなど、外部の意見を聞く努力がなされています。 四半期ごとに、所管局との情報共有を図る連絡会を開催できていることを評価します。 今期から外部の方々で構成する運営協議会を設置し、意見をいただくことは、事業の改善、新規開拓へのヒントを得る貴重な機会となります。 			
<p>【今後予定している取組等】</p> <p>運営協議会にていただいたご意見等について、優先順位を設け、実現に向けて調整していきます。</p> <p>また、地域や関係団体の会議やイベントに積極的に出向き、直接情報を得ていきます。</p> <p>引き続き、事業評価会を実施し的確な施設運営を実施していきます。</p>				<p>【改善に向けての提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施プログラム、提供サービスの企画や実施結果の検証においては、費用対効果の視点を持つことが必要と考えられます。 運営協議会の報告書を見ると、幅広い視点から貴重な意見が出されています。今後は、いただいた意見を事業の展開にどのように結びつけられるかが問われることとなります。提案された事項についての実現可能性を検証し、実現できるものについてはスケジュールを組み、着実に実施につなげていくことを心がけてください。 可能であれば、運営協議会の開催頻度を年1回から、半期に一度(年2回)程度に上げていくことを検討してください。 			